

ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

豊田工業大学広報誌

vol. 109

APRIL 2021



CONTENTS

卒業式・修了式／入学式	02
2020年度卒業式・修了式 学長告辞	03
2020年度・2021年度入学式 学長式辞	04
2020年度卒業・修了生の進路状況	05
内定者の声	06,07
次世代文明センター 新体制で始動	08
文部科学省事業に採択／オープンラボ実施	09
創造性開発教育	10
テルのび太、学生最後の試合で勝利!!	11
研究最前線～教員編～	12,13
私の研究、紹介します～学生編～	14
NEWS FILE／人事紹介	15
受賞	16

SCHEDULE 行事予定 (5月～8月)

入試情報

■ 6月19日	高専第3年次編入学試験 (6/30合格発表)
■ 6月19日	大学院修士課程早期卒業予定者対象特別選抜 (6/30合格発表)
■ 7月22日	大学院博士後期課程入学者選抜 (夏季) (8/2合格発表)

学事

■ 7月26日～8月2日	前期定期試験
■ 8月4日～9月5日	夏期休業

2020年度 卒業式・修了式



昨年夏、竣工したばかりの豊田喜一郎記念ホールで、2020年度卒業式・終業式が3月19日に挙行されました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりましたが、今年度は式典の規模を縮小し、列席者を卒業生・修了生と一部学内者のみに限定して行われました。工学部卒業生は89名、大学院工学研究科(修士課程)修了生は59名、博士(工学)学位取得者は2名の計150名。

2019年9月に学長就任後、初の卒業式となった保立和夫学長から、学部代表の林亮太さん(ダイキン工業/茨城工業高等専門学校[茨城県]出身)、修士代表

の北河正洋さん(愛知県立国府高等学校[愛知県]出身)に、それぞれ学位記が授与されました。

保立学長は、「社会に価値を提供するうえでも、また社会で起きているさまざまな事象を理解し、自身の意見を形成するうえでも大事な『自ら論理的に考える態度』にこだわり続けてほしい」と告辞を贈りました。

続いて、学校法人トヨタ学園 増田義彦理事長は、「今後大きく変革していく時代に、時流に先んじようという『志』を強く持ち、大きく羽ばたいて



告辞を述べる保立和夫学長

ほしい」と激励しました。また、来賓の方々を代表してダイキン工業株式会社 代表取締役社長兼CEOの十河政則氏より祝辞を頂き、豊田工業大学シカゴ校(TTIC)のMatthew Turk学長などからの祝電が披露されました。

続いて、卒業生を代表して藤田隼平さん(静岡県立浜松北高等学校[静岡県]出身)、修了生を代表して松本憩さん(麗澤瑞陵高等学校[岐阜県]出身)が、それぞれ謝辞を述べました。



2020年度・2021年度 入学式

昨年中止となった2020年度入学式と、2021年度入学式が、4月1日にそれぞれ挙行されました。

保立学長より、『学修』と『研究』の活動をしっかり実施して、それらの成果と共に『自ら論理的に考える汎用能力』、つまり『社会人として社会に貢献する基礎力』も十分に鍛えてほしい」と期待の言葉が贈られました。続いて増田理事長は、「誤りや失敗を恐れず、元気に学生生活を楽しんでほしい」と

祝辞を述べました。また、TTICのTurk学長からお祝いのビデオメッセージが届けられました。

2020年度入学生を代表して、学部の所京太郎さん(岐阜県立岐阜北高等学校[岐阜県]出身)、2021年度入学生を代表して学部の井川結衣子さん(岐阜県立岐阜北高等学校[岐阜県]出身)、大学院の井藤優太さん(名古屋市立菊里高等学校[愛知県]出身)が、それぞれ誓いの言葉を述べました。



学校法人トヨタ学園 増田義彦理事長

2020年度・2021年度 入学者数 (名)

	2020年度	2021年度
工 学 部	105(内、編入生7)	104(内、編入生7)
大学院修士課程	48	50
大学院博士後期課程	2	5
計	155	159

2021年3月19日

2020年度卒業式・修了式 学長告辞

豊田工業大学 学長 保立 和夫



本日、豊田工業大学から学士あるいは修士の学位を授与された皆さんに、心からお祝いを申し上げます。ご家族の皆さまにおかれましても、大変にお喜びのことと存じます。

皆さんは、本学において、学修面では「深い理解を体系的に獲得する」ために、研究面では「独創的な成果を生み出す」ために、努力を積み重ねてこられました。学修においても研究においても、先に進むことが困難な場面に遭遇されたこととも思います。皆さんは、それらを克服されて、本日この晴れやかな式に臨んでおられます。これまでのご努力に敬意を表します。これらのご経験は、皆さんに自信を授けてくれたことと思います。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、年度当初は学修も研究もオンラインとなりました。大学院生と4年生の皆さんは、初夏の頃には、シミュレーションなど遠隔での研究活動となりました。そして、修士2年の皆さんは7月から、学部4年の皆さんは8月初旬から、研究室での活動を再開していただきました。

各研究室では、厳しい感染症対策を設計して厳守してくださいました。皆さんには、その対策の必要性を理解し協力していただいたことに、改めて感謝致します。卒論と修論の成果発表では、前期でのシミュレーションと後期での実験を見事に融合させた素晴らしい成果が発表され、皆さんのご努力に改めて感銘を受けた次第です。

さて、21世紀は、「こと」を実現する時代と言われてきました。環境が守られている「こと」、安心して暮らせる「こと」、健康な「こと」、などです。20世紀には、科学技術により生活に役立つ便利な「もの」がたくさん誕生しましたが、反面、環境問題や資源の枯渇などが顕在化しました。そこで、21世紀は、「もの」ではなく生活を豊かにする「こと」を求める時代になったのです。「持続的開発目標:SDGs」も、「『もの』から『こと』へ」の発想の転換に関連しています。しかし、この度の感染症蔓延、2011年の東日本大震災など、「持続的開発」つまり「こと」の実現は、そう簡単ではないようです。私たちは、叡智を集め、その実現を進めてゆかなければなりません。

工学は、元来、「もの作りのための学問」です。しかし、その対象は拡大を続け、今や工学は、「もの」のみならず「こと」の実現での役割も大きくなっています。「こと」を実現するためには、多くの学術・技術領域間の連携が必要です。しかし、この連携には、各分野に「専門家」が存在することが必須です。専門分野を体系的に修められた皆さんには、持続可能な社会を実現するために、専門性を生かしつつ、社会のため、ご自身のために、ぜひとも活躍いただきたいと願っています。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として、1981年に開学致しました。以来、関連企業の皆様方からのご支援に支えられつつ、教育と研究において自由で闊達な活動を展開して参りました。この間、ご関連の皆様方からのご支援・ご鞭撻に、感謝申し上げます。そして本年は、開学40周年を迎えております。昨年夏には、関連企業の皆様方からのご支援にて、キャンパスリニューアルも完了し、教育と研究の施設が刷新されました。

開学40周年にあたり、本学では記念のロゴマークを作成致しました。これには、学修においても研究においても、「帰結に対応した理由に納得するまで考える態度」に拘ってほしい、という「思い」を込めました。この態度に拘りつつ学修と研究に挑戦した成果として、この態度は「自ら論理的に考える能力」へと進化しているはずで、この能力は、社会人として世界に新たな価値を提供する際にも重要な汎用能力です。社会で起きているさまざまな事象を理解し、ご自身の意見を形成するときにも役立ちます。この能力は、間違いなく、皆さんを素晴らしい未来へと導いてくれると信じています。

豊田工業大学は、「山椒は小粒でもピリ辛い」存在感をさらに高めてゆきます。皆さんにも、協力と応援をお願い致します。卒業・修了の季節になると、皆さんに伝えてきた言葉があります。「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も。成らぬは人の、為さぬなりけり」米澤藩9代藩主上杉鷹山の言葉です。さあ、これからも、みんなで頑張りましょう。改めまして、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

2021年4月1日

2020年度・2021年度入学式 学長式辞

豊田工業大学 学長 保立 和夫



本日、豊田工業大学に入学された皆さんに、心から歓迎の気持ちをお伝え致します。昨年度ご入学の皆さんともここに「入学式」が挙行できますことを、大変に嬉しく思います。ご入学おめでとうございます。ご家族の皆さまもお喜びのことと思います。昨年ご入学の皆さんは、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けられました。そのような中でも、学修と研究の活動を展開してこられたことに、深く敬意を表します。

大学は、学修、研究、課外活動を通して「社会人として社会に価値を提供し貢献するための基礎力」を蓄積する場です。大学での真の活動目標は、就職先の探索ではなく、ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これにより、皆さんには、広範な未来が開かれます。

皆さんが「学修」を通して培うべきことは、「帰結への深い理解」です。帰結には理由があって、理解するには「帰結に対応した理由に納得するまで考える態度」が重要です。理由は、それを帰結とする深い理由を手繰ります。大学での学修内容は、体系化された「帰結と理由の大規模な連鎖」ですので、この態度が大切です。これは「自ら論理的に考える態度」です。独創性に富んだ「研究」を遂行するために必要な態度も、学修において大切な態度と同じです。つまり、研究活動も「自ら論理的に考える態度」の積み重ねなのです。

皆さんにとって「学修」は「自己研鑽」です。ここで、体系化された「帰結と理由の大規模な連鎖」の学修を通し、「自ら論理的に考える態度」も体得します。こうして鍛えた態度は、4年生での卒業研究の推進にも役立ちます。この卒業論文には「社会貢献」の色彩が入ってきます。その成果が、社会に新たな価値を提供する可能性を有しているからです。社会に価値を提供するとは、一般的に、「自らが有する知識を総動員し、そこに新たに学修する要素も活用して、課題解決などの目的を達成するために、論理的に考え抜いて、結論を出し、実行する」と言うことです。つまり、研究のプロセスと同一です。結局、大学での「学修」と「研究」の活動は、「社会人として社会に価値を提供して貢献する基礎力」を培う活動なのです。ですから、大学での毎日の活動を決して疎かにしないでほしい、と願います。

工学の成果は直接的に社会変革を導きます。そこで、工学に携わる者には、この変革による将来を想像し、それに責任を持つことも求められます。そのためには専門の学修だけでは不十分で、「リベラルアーツの学修」も重要です。インターネット社会は国際化社会ですから、「国際語」としての英語力と「深い思考の基盤」となる第一言語力の学修も重要です。

学部4年間では、専門の学修から得られる能力、教養科目の学修から得られる能力、また語学能力を修めます。「学修」と「研究」を通して「自ら論理的に考える態度」を貫くことで、この態度は「自ら論理的に考える能力」へと進化します。これはジェネリックスキルと呼ばれ、汎用能力です。これら能力を総合し「学士力」と呼びます。修士および博士課程では、専門力をさらに深めつつ、「研究」活動を通しこの汎用能力をさらに鍛錬します。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として、1981年に開学致しました。以来、関連企業の皆様方からのご支援に支えられつつ、教育と研究において自由で闊達な活動を展開して参りました。この間、ご関連の皆様方からのご支援・ご鞭撻に、感謝申し上げます。そして本年は、開学40周年を迎えております。昨年夏には、関連企業の皆様方からのご支援により、キャンパスリニューアルも完了し、教育と研究の施設が刷新されました。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響下で活動を開始しています。種々の感染症対策を講じつつ、皆さんの活動に支障が生じないよう努めて参ります。入学式が挙行でき、キャンパス内での教育・研究活動が実施できますことは、学生の皆さんと教職員の皆様のご努力のお陰です。心から感謝しております。今後とも、ご協力をお願い致します。

開学40周年にあたる本年、リニューアルされた久方キャンパスにて、学生の皆さんならびに教職員の皆様とご一緒に、本学がさらに活力ある教育・研究機関となれるよう、努力を積み重ねてゆきたいと思っております。「山椒は小粒でもピリ辛い」豊田工業大学の存在感は、もっと高めてゆけると信じています。皆さん、一緒に頑張りましょう。

改めまして、ご入学おめでとうございます。

2020年度卒業・修了生の進路状況

✓就職決定率 **98.7%達成** ✓第一志望への就職率 **78%**

卒業・修了生の進路（就職は内定状況）

	学部			修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
卒業・修了	13(8)	76(84)	0(1)	1(0)	58(32)	0(3)			2*(1)
内訳	企業復帰	13(8)		1(0)					
	就職		27*(1)(32)	0(1)		50(30)			2(1)
	進学		49(51)			6(2)			
	その他		(1)		2(0)	0(3)			
計	13(8)	76(84)	0(1)	1(0)	58(32)	0(3)			2(1)
		89(93)			59(35)				2(1)

※1 学部卒のうち1名(一般・就職)は9月に卒業

※2 博士後期留学生1名は9月に修了後帰国、1名は12月に修了後帰国

()は昨年実績人数

一般学生の就職先一覧

(人数順、五十音順)

(名)

学部(27名)	
企業名	キヤノン株式会社
	2
	株式会社東海理化
	2
	トヨタ自動車株式会社
	2
	トヨタ車体株式会社
	2
	アイシン精機株式会社
	1
	株式会社アテック
	1
	NOK株式会社
	1
	株式会社オプトラ
	1
	株式会社協豊製作所
	1
	株式会社ジェイテクト
	1
	新東工業株式会社
	1
	セレンディップ・コンサルティング株式会社
	1
	ソニーGM&O株式会社
	1
	ダイキン工業株式会社
	1
	株式会社豊田自動織機
	1
	トヨタ紡織株式会社
	1
	林テレンプ株式会社
	1
	株式会社日立製作所
	1
	株式会社日立ハイテック
	1
	株式会社マキタ
	1
	三菱電機エンジニアリング株式会社
	1
	公務員(岐阜市役所)
	1
	農業(果樹栽培)
	1

修士(50名)				
企業名	豊田合成株式会社	4	太平洋工業株式会社	1
	トヨタ自動車株式会社	4	株式会社デンソークリエイト	1
	株式会社ジェイテクト	3	トヨタ紡織株式会社	1
	株式会社デンソー	3	ニチコン株式会社	1
	三菱電機株式会社	3	日星電気株式会社	1
	アイシン精機株式会社	2	株式会社ニデック	1
	株式会社NTTDコム	2	日本放送協会(NHK)	1
	住友電気工業株式会社	2	浜松ホトニクス株式会社	1
	株式会社ダイフク	2	ピューテック株式会社	1
	株式会社豊田自動織機	2	マツダ株式会社	1
	トヨタ車体株式会社	2	三菱ふそうトラック・バス株式会社	1
	アイコアルファ株式会社	1	株式会社村田製作所	1
	オーエスジー株式会社	1	株式会社山寿セラミックス	1
	京セラ株式会社	1	豊ハイテック株式会社	1
	SONY株式会社	1	公務員(文部科学省)	1
	大同特殊鋼株式会社	1	豊田工業大学(研究補助者)	1

参考 一般学生の就職先企業 累計上位(学部・修士 1995年～)

(名)

学部		修士		
企業名	トヨタ自動車株式会社	98	ソニーグローバルM&O株式会社	17
	アイシン精機株式会社	65	株式会社アドヴィックス	15
	株式会社デンソー	63	株式会社トヨタシステムズ	15
	株式会社豊田自動織機	59	愛三工業株式会社	14
	アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	51	住友電気工業株式会社	14
	矢崎総業株式会社	37	ダイキン工業株式会社	14
	本田技研工業株式会社	36	ダイハツ工業株式会社	13
	三菱電機株式会社	34	パナソニック株式会社	13
	株式会社ジェイテクト	32	フタバ産業株式会社	13
	豊田合成株式会社	31	キヤノン株式会社	13
	トヨタ紡織株式会社	27	小島プレス工業株式会社	11
	株式会社東海理化	27	スズキ株式会社	11
	トヨタ車体株式会社	26	日野自動車株式会社	11
企業名	株式会社協豊製作所	11		
	トヨタテクニカルディベロップメント株式会社	10		
	日本精工株式会社	9		

参考 学部の副専攻分野(主専攻分野を除く) 認定状況

(名)

認定状況	2分野認定	1分野認定	
所属分野	機械システム	0名	11名
	電子情報	2名	5名
	物質工学	3名	3名
計	5名	19名	

※企業名は2020年度時点

内定者の声

ズバリ聞きます!
豊田工業大学の
強みは
何だと思いませんか?

開学以来、高い就職決定率を維持する豊田工業大学。内定をつかみ取った先輩たちに、就職活動を振り返り、本学の強みだと感じたことや、内定獲得につながった本学での経験や学びについて、教えてくださいました。

修士
海外学外実習

FILE 伊東 直紀 さん(修士)
内定先
日本放送協会 (NHK)

出身校 [県]: 名古屋市立向陽高等学校 [愛知県]
研究室: システム光波工学研究室
研究テーマ: 簡素化 BOCDA 歪分布測定システムの機能向上に関する研究

修士1年の冬、カナダのオタワ大学へ約2か月の研究留学に行き、日本とは異なる研究環境に身を置くことで、新たな知識や多角的な視点で研究に挑む姿勢を身につけることができました。この経験は、その後の研究活動における創造力・チャレンジ精神を育み、就活の面接では物事に取り組む前向きな姿勢や問題解決能力の高さとして評価されました。

充実した
英語教育

FILE 安田 智貴 さん(学部)
内定先
株式会社日立製作所

出身校 [県]: 名古屋市立向陽高等学校 [愛知県]
研究室: 電磁システム研究室
研究テーマ: 極薄膜軟磁性材料の計測技術および高周波磁気特性評価

内定先の日立製作所ではグローバル人材を求めており、配属予定である鉄道分野の本社機能も欧州にあることから、在学中に向上させた英語力が内定獲得につながったと感じました。学内で定期的実施されているTOEICの受験や英語イベント・コンテストの参加、ネイティブ教員による英会話レッスン受講など、積極的に取り組んだことが結果につながったと確信しています。

学外実習

FILE 川瀬 雄登 さん(学部)
内定先
アイシン精機株式会社*

出身校 [県]: 愛知県立江南高等学校 [愛知県]
研究室: 材料プロセス研究室
研究テーマ: 鋼材の表面改質処理の違いが疲労強度や残留応力解放挙動に及ぼす影響

3年次に東海理化で5週間にわたり、シートベルト部品の開発に携わりました。そこでは生産ラインで起こる問題に対し、実験を行うことで解決策を見つけ出し、さらに生産ラインへの導入可否について実験を重ねて検証しました。この経験により、「結果に対してなぜそうなったのかを突き詰めて考える」ようになり、4年次の研究室配属後も、自身の研究への取り組みに大いに生かすことができました。

複数分野における
工学知識の修得

FILE 松本 憩 さん(修士)
内定先
ソニー株式会社

出身校 [県]: 麗澤瑞浪高等学校 [岐阜県]
研究室: 情報記録工学研究室
研究テーマ: 磁気光学スペクトルを用いた磁性層/重金属層ヘテロ構造における界面効果の評価・解析

面接で製品化のアイデアを提案する場面がありました。私の拙い発案に対して鋭い指摘を受けましたが、専門分野外の知識も活用しながら解決案を思案し述べたところ、面接官に学んでいる範囲の広さを感じられました。主専攻の電子情報だけではなく、機械システムおよび物質工学についても学んだことが、自分にとって大きな強みになったと感じました。

研究室の垣根を
越えた交流

FILE 長谷川 峻己 さん(修士)
内定先
株式会社NTTドコモ

出身校 [県]: 富山県立魚津高等学校 [富山県]
研究室: 設計工学研究室
研究テーマ: 感性のばらつきに応じたロバスト意匠設計手法の提案

「感性工学を用いた意匠設計手法」という私の研究テーマを、ヘルスケア分野に生かすことができる。そう知ったのは専門が異なる研究室の教員や同級生との日常的な意見交換がきっかけです。本学の修士課程は1学年50名程度で教員・学生も顔なじみ。研究室の垣根を越えた交流は、時に自分の専門外の領域にも目を向けることとなり、幅広い企業選びに繋がりました。

企業派遣講師

FILE 稲熊 陸 さん(修士)
内定先
株式会社デンソー

出身校 [県]: 愛知県立半田高等学校 [愛知県]
研究室: 知能数理研究室
研究テーマ: 機械加工文書における入れ子構造とトリガワードを考慮した用語関係同時抽出

本学では、企業派遣講師による授業・実習が豊富にあり、実際の製造・開発現場を知る機会が多くあります。学部3年次に履修した「トヨタ生産方式概論」では、トヨタ自動車の講師よりモノづくりにおける効率化の重要性を学び、将来は自分の専門分野であるAIの知識や技能を、生産技術部門の効率化に活用したいと思いました。

学外実習

FILE 近藤 ひなの さん(学部)
内定先
キヤノン株式会社

出身校 [県]: 三重県立桑名高等学校 [三重県]
研究室: 電子デバイス研究室
研究テーマ: エネルギーハーベスティングにむけたAlGaN/GaN ヘテロ接合ダイオードの低オン電圧化の検討

豊田合成でソフトウェア開発に取り組ましました。そこでは、ハード・ソフト両面に携わる仕事の魅力や、徹底した品質保証を実現しているという社員の方々の自負心に触れ、仕事の意義ややりがいについて深く考えることができました。企業の第一線で活躍される社員の方々から学ぶことは、大学の授業では体験できない価値があり、自分の将来を考えるきっかけとなりました。

仲間意識

FILE 武山 周介 さん(修士)
内定先
三菱電機株式会社

出身校 [県]: 岐阜県立岐早北高等学校 [岐阜県]
研究室: 熱エネルギー工学研究室
研究テーマ: 高粘性液体の噴霧におけるノズル内キャビテーションと微粒化効果

全寮制、少人数教育で培われた学内の高い仲間意識が強みだと思えます。エントリーシートや面接練習を、友人達と何度も重ねたことで自信が付き、面接本番でも臆することなく実力を発揮することができました。また、仲間との精神面での支え合いも原動力となり、就活を乗り越えることができたと思えます。

全寮制

FILE 石原 純 さん(修士)
内定先
マツダ株式会社

出身校 [県]: 広島市立基町高等学校 [広島県]
研究室: 流体工学研究室
研究テーマ: 超音速噴流と共鳴管の相互作用による加熱現象の解明

久方寮において、寮生サポーターとして1年生との共同生活および、寮の自治に携わっていたことで養われたコミュニケーション能力や人をまとめる能力などを、就活時にアピールすることができました。大学の寮において、学年を越えてこれほど密接に共同生活をしているのは珍しいようで、面接時にも興味をもっていただけました。

豊富な研究・
実験設備

FILE 白木 恭平 さん(修士)
内定先
京セラ株式会社

出身校 [県]: 岡崎城西高等学校 [愛知県]
研究室: 量子界面物性研究室
研究テーマ: 可視光応答型光触媒における光励起キャリアの挙動の観察

本学は、研究室の配属人数に対し、多くの実験装置が整備されている恵まれた環境です。また、機器の利用時間などの制約もほとんどなく、自身の研究テーマにじっくり取り組むことができます。内定先の採用面接では、研究に関するさまざまな質問を数多く受けましたが、実験プロセスや結果に基づいて具体的に説明することができ、実験に没頭した経験が生かされたと感じました。

他学年に
広がる人脈

FILE 河村 英果 さん(修士)
内定先
トヨタ自動車株式会社

出身校 [県]: 岐阜県立岐早高等学校 [岐阜県]
研究室: 光機能物質研究室
研究テーマ: カルコゲナイド全固体微細構造光ファイバの波長分散と偏波保持性の制御

一学年の人数が少ない工学部では、他学年にも人脈が広がります。先輩からはいつでもアドバイスをいただけて、後輩からの相談には相手の状況や考えを理解し、解決の糸口を共に見つけるよう努めました。縦横のつながりが強く、学年を越えた人間関係も構築することができる環境で、相手の立場を考えて柔軟に対応する力が身についたと思えます。

次世代文明センター 新体制で始動

本学では、「スマートビークル研究センター」「スマートエネルギー技術研究センター」「スマート光・物質研究センター」を設け、学際的な共同研究や連携研究を進めています。これらの研究センターに加え、2021年度より教育・研究の両機能を併せ持つ人文社会系・教養教育系のセンターとして、「次世代文明センター」が新体制で始動します。

センターの概要

センター長	村上 陽一郎(東京大学・国際基督教大学名誉教授)
設立年度	2016年度
主な教育・研究テーマ	①文明、市民社会、デジタル社会のあり方に関する哲学的研究、および対話理論や手話、人工知能言語を中心とした言語研究 ②教養教育およびリベラル・アーツ教育の手法開発と連動した人間力の育成



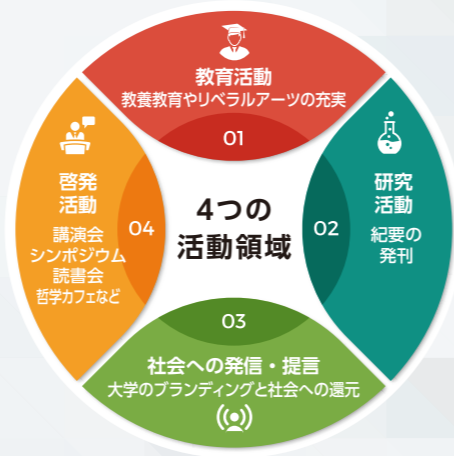
現代は、未来予測が困難な時代と言われます。グローバル化に伴う価値観や人生観の多様化、社会のさまざまな場面での急速な情報技術(IT)化・自動化・デジタル化など、激しい変化に直面しています。こうした不透明な時代において、未来の文明社会のあり方を模索し、同時に、次世代の文明社会を担うべき人間へとわれわれ自身を高めるための学修・相互啓

発を目的として、本センターは設立されました。本センターは、「教育」と「研究」の両方の機能を併せ持つ機関として、一方では、「リベラル・アーツ」を軸とした「教養教育」の充実と整備を進め、他方では、科学・技術と人文・社会科学の両方の観点から文理融合型の文明研究を推進し、時流に先んずる創造的かつ先端的な知の拠点の形成に貢献します。

活動内容

学術誌として年1回の紀要発刊や、定期的に講演会やシンポジウム、研究会・勉強会・読書会などの開催を計画。また、哲学的・思想的研究や、言語研究を行いつつ、学生の教養教育・語学教育、さらには言語能力向上のための対話教育イベントを実施していく予定です。

将来的には、各種のスタディツアーを行い、学生が文明のあり方について知見を深める機会を提供することも視野に入れています。



次世代文明センターシンポジウム開催報告(3/2)

「コロナ後の文明社会はどのような方向へ進むべきか」をテーマに、オンラインでシンポジウムを行い、計77名が参加しました。センター長の村上陽一郎先生を提題者に加え、「ウイルス禍と災後」と題された講話を基に、本テーマについてファシリテータの江口建教授(人文科学:哲学担当)をはじめ、専門分野の異なる5名の教員でパネルディスカッションを行いました。

コロナ禍において私たちの身の周りで起こっている、さまざまな変化や多岐にわたる問題をめぐり、パネリストそれぞれの観点から提出された論点について議論を交わしました。議論の方向性や論点は多岐にわたり、参加した聴講者からも多くの質問やコメントが寄せられました。



村上陽一郎センター長(下段中央)、江口建教授(下段右)、パネリストの保立和夫学長(下段左)、三輪誠准教授(知能数理工学研究室:上段左)、原大介教授(外国語担当:上段中央)、竹内恒博教授(エネルギー材料研究室:上段右)が画面越しに議論を交わした。

文部科学省「マテリアル先端リサーチインフラ」事業に採択

文部科学省「マテリアル先端リサーチインフラ」事業において、技術領域「高度なデバイス機能の発現を可能とするマテリアル」(代表者:佐々木実教授)が採択されました。本学は、前身のナノテクノロジープラットフォーム(以下、ナノPF)事業に参画していますが、このシリコンをベースとした各種材料を、ハイブリッド的に活用する加工技術の蓄積を機能強化していきます。情報技術を有効活用し、データ収集を円滑に行う環境を整備し、日本の研究活動を支援します。

事業内容のポイント

これまで参画してきたナノPF事業の内容が評価され、後継の意味合いのある本事業に採択されました。2021年度はナノPF事業の最終年度であり、マテリアル先端リサーチインフラ事業の立ち上げ年度と重なっ

ています。装置共用に加えて、新しく求められる内容は、利用者を支援する際に得られるプロセス条件や加工結果などのデータを収集し蓄積することです。

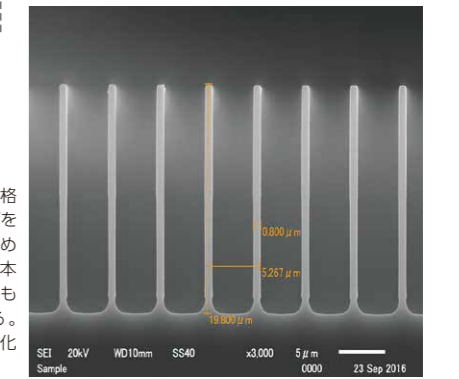
マテリアルデータは、材料の性質

だけでなく、どう加工したらどのような特性が得られるかという加工特性の意味を含みます。製品であるデバイスは、何らかの加工が施されて初めて成立するからです。

特性の優れた材料は加工が難しいことが多々生じますが、適切な加工技術により、高機能デバイスの実現を支援します。国全体としては、集められたデータを第三者が利活用できるように整備し、データ駆動型の研究開発を加速します。

事業名	マテリアル先端リサーチインフラ
機能名	スポーク
重要技術領域名	高度なデバイス機能の発現を可能とするマテリアル
代表者	佐々木実教授(マイクロメカトロニクス研究室)
事業期間	2021～2030年度(10年間)

支援で試作したSi格子。幅0.8μmで壁面を平滑にした。このためのプロセス条件が本事業のデータとしても収集・活用される。(F-15-TT-0029 理化学研究所)



「オープンラボ2020」オンラインで実施

本学の研究活動状況や研究成果を広く紹介するため、「オープンラボ2020」のオンライン特設サイトを12月17日～1月31日まで開設しました。



これまで年に一度、「企業向けオープンラボ」として各研究室を開放し、教員による研究紹介や設備・装置の見学などを行い、産業界との研究交流を深めてきました。2020年度は、イベント開催に代わり特設サイトの開設により、産学連携に留まらない情報発信を行いました。

特設サイトでは、最新の研究活動紹介動画の公開や、研究紹介ポスターの掲載、さらに昨年夏に完成した新キャンパスの情報も発信し、好評のうちに終了しました。



コロナ禍でも工夫して実施

学部1~3年次

実験・実習科目の体験会(12~3月)

2020年度は、実験・実習科目においてもオンライン授業を余儀なくされました。しかし、実際に手を動かして体験してほしいという教員の思いにより、感染症対策などを施したうえで「化学実験」、「工学リテラシー」、「工学基礎実験」などの4科目22テーマにおいて、実験・実習科目の体験会を実施しました。体験会は、12月から3月にかけて学部1~3年生の希望者約50名が参加。学生からは「オンラインでは味わえない学びや楽しさがあった」などの感想が聞かれました。



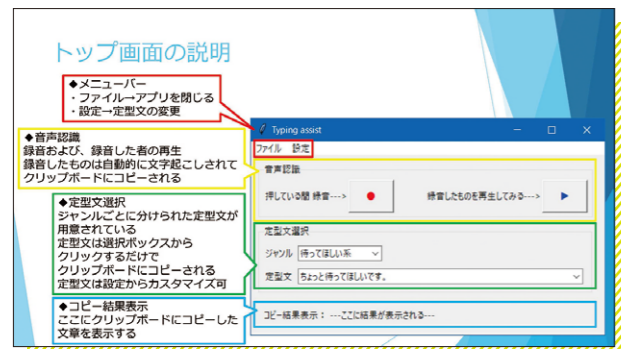
「工学リテラシー」実習体験会の様子

学部1年次

モノづくりによる創意工夫を競う「イノベーションコンテスト」(12/14)

寮生活で困っていることを、ちょっとしたモノづくりや工夫で解決することにチームで挑むイノベーションコンテスト。例年、久方寮で共同生活を送る7人のユニットで編成されたチームで、課題発見や創意工夫、モノづくりの製作課程などを3分間

の動画にまとめ、その完成度を競ってきました。2020年度は、入寮できなかった1年生のために、課題を「寮生活」から「オンライン生活」に置き換え、学生間の相談や作品づくり、コンテストをオンラインで実施しました。また、チームで集まったの作業が難しいことに配慮し、アイデアを映像化するだけでもよいというルールが加わりました。優勝したのは、オンライン講義の際などに、質問したくてもタイピングが間に合わないといった悩みを解決するため、タイピング時間の短縮ができるアプリを開発したチーム。アプリは、講義中に多くある質問内容をあらかじめ定型文として用意し、ワンクリックで定型文の使用を可能にしました。また、音声認識を利用し、発話による文章入力時間を短縮することもできます。なお、コンテスト後には受講した1年生向けに、実際にアプリとその設定・使用方法の説明書が配布されました。



アプリの説明画面

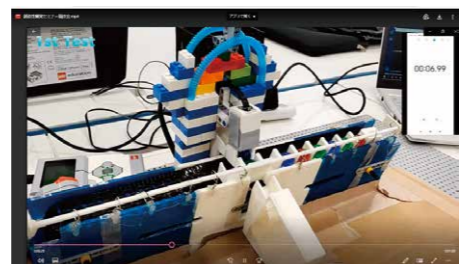
学部3年次

創造性開発セミナー競技会(12/25)

学部3年次の必修科目「創造性開発セミナー」の集大成として、競技会をオンラインで実施しました。主専攻(機械/電子情報/物質)の異なる6名のチームで力を合わせ、レゴブロックや3Dプリンタで作製した部品に、センサーやモーターなどを組み合わせた装置を製作します。装置には、3色のビー玉を指定の配列に並べるようにプログラムを組み込み、規定通りに取ったビー玉の個数やタイムを競い合います。

2020年度は、オンライン上で仲間と協議しながら装置の計画を練り、アイデアを動画で発表することを課題としました。感染症対策を行って集まることのできたチームは、実際に装置も製作

しました。使用可能な材料も限定されているなどの難しさがあるこの競技。今回はさらに、チームで集まることにも制限がありました。競技会では完成度の高い作品が多く見られました。



競技会時に披露された装置の映像

テルのび太、学生最後の試合で勝利!!

2020年12月26日に行われたボクシングのスーパーバンタム級6回戦で、「テルのび太」のリングネームで戦う学部4年の嶋田光高君が、最終6ラウンドで見事KO勝ち。プロ6勝目を挙げ、A級ボクサー昇格を決めました。学生最後の試合を勝利で飾り、春からトヨタ自動車に就職する嶋田君にお話を聞かせてもらいました。

PROFILE 嶋田 光高君

学部4年：量子界面物性研究室
(文徳高等学校【熊本県】出身)

研究テーマ | OCT応用へ向けたGaAsキャップ層の成長
条件によるInAs量子ドット発光の波長制御

内定先 | トヨタ自動車株式会社

幼少期より空手、キックボクシングなどを経験し、大学1年次から名古屋市緑区にある「緑ボクシングジム」に所属。ボクシングの練習は日曜日を除く週6日、毎回2時間くらい。栄養面や体重コントロールは、自然して自己管理しているが、友人とルームシェアをしているので、減量中でも目の前でラーメンをすすられることも(笑)。試合前は、好物のコーラも我慢して1カ月で約8キロ減量し、普段12%ほどの体脂肪率が6%くらいまで絞る。



INTERVIEW

卒論に追われながらの勝利

学生生活を締めくくる大切な試合となりましたが、どのような気持ちで臨みましたか。

A級昇格がかかった大事な試合というのはもちろんありましたが、先輩の初防衛戦の前座試合でもあったので、勝って先輩につなげたいと思っていました。また、コロナの影響でリングに立てたのも1年ぶりだったうえ、当日の試合数が絞られ2試合しか行われなかったのも、応援に来てくれた人を喜ばせたい、満足させたいという気持ちもありました。

僕はあまり緊張しないタイプですが、今回はさすがにプレッシャーを感じました。ちなみに前日まで卒論に追われていたのですが、当日は気持ちを切り替えて試合に挑みました。

見た目のイメージと違い、試合では攻める

リングネーム「テルのび太」の由来は何ですか。

試合時は「テルのび太」の名で戦い、のび太のコスチュームを着てドラえものの曲で入場します。僕は色白で、眼鏡もかけ

ていて、よく「弱そうだ」と言われますが、それが「のび太君」のイメージと合うということで、本名の「テルタカ」と掛け合わせ、ボクシングジムの先輩が付けてくれました。裸眼の視力は0.1くらいしかありませんが、試合時に眼鏡とコスチュームを外した途端、「のび太」から一転し、攻撃的に攻め込むところが僕の持ち味と言われるます。

試験勉強×練習×減量は相当ハード!

学業とボクシングの両立は大変だったと思います。振り返ってみてどう思いますか。

豊田工大は特に課題が多く、それをこなすだけでも日々大変ですが、定期試験翌日が計量、その翌日が試合というハードスケジュールを2回経験しました。試験勉強をしながら減量し練習もこなすのは、時間の制約もあり精神的に追い詰められ、とてもきつかったことが忘れられません。こうした経験を通じ、学業とボクシングのどちらも手を抜かず両立するために、計画性や自己管理能力が向上したと思います。

嶋田君にとって、ボクシングとは?

「自己表現の場」です。自分のありのままを出せるのが、僕にとってのボクシングです。ボクシングジムのほかの仲間と比べ、学業でも多忙な僕は時間的には不利ですが、厳しい環境に身を置くことで、肉体だけではなく精神力も鍛えられました。応援してくれる人の存在も大きいです。ボクシングは、チケットを売って試合を観戦してもらいますが、毎回試合を見に来てくれる友人の存在や、応援してくださる教職員の方々サポートは本当に力になります。

いずれは日本チャンピオンに

今後の夢や目標をお聞かせ下さい。

これまで学業優先でやってきたように、社会人になってからも仕事優先で、会社の理解を得られる範囲でボクシングは続けていきたいと思っています。いずれは日本チャンピオンになりたい。やるからには上を目指したいと思っています。



東大寺の金剛力士像とハイ、ポーズ!

本学の研究プロジェクトや、研究室での研究内容について紹介していくコーナーです。先生方は、日々どのような研究をしているのだろうか？そんな疑問に答えるべく、分かりやすく研究内容を解説していただきます。

2回目となる今回は、竹内恒博教授(エネルギー材料研究室)が研究代表者を務める、2018年度に「戦略的創造研究推進事業(CREST) [文部科学省・JST]」に採択された研究プロジェクトについて、教えていただきます。



研究プロジェクト名 ▶

文部科学省(国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST))
戦略的創造研究推進事業(CREST)

異常電子熱電導度と異常格子熱電導度の制御

熱流を司る物理の探究と 革新的な熱利用素子の創製

■ 新たな熱利用素子を開発

このプロジェクトでは、金属や半導体などの固体材料における熱の伝わり方を、伝導電子の運動や原子の振動といった微視的観点から解明し、これまでに存在しないような新しい熱利用素子や高性能素子の開発につなげる研究をしています。

■ 電気は流しても熱は流れない!? 特殊な金属材料を開発

金属が熱を良く伝えることは広く知られています。この事実から、伝導電子が電荷と熱流の双方の担い手にもなっていることが理解できます。しかし、エネルギーごとに伝導電子を分類すると、電荷を運んでいる電子群と熱を運んでいる電子群は、実は同じではないことが理解できるよ



室温~700℃における電子物性を測定するために測定パラメーターを入力している様子。

うになります。

この知識を利用すると、電気は良く流れるのに、熱が流れ難い特殊な金属材料などを生み出せます。また、金属

や半導体に温度勾配をつけることで発生する熱起電力は、電子の移動を妨げます。通常は無視されるほど小さなこの効果を大きくする材料設計からも、伝導電子がたくさん存在し良導体になるにも関わらず、その熱流への寄与が著しく小さい断熱材的良導体を創製できます。このように「電子を用いて熱流を制御する」ために、理論計算と実験を駆使して、「材料内の電子の性質」と「材料が示す熱の特性」を解析しています。

■ 将来的には、大規模な発電機が必要なくなるかも!?

本プロジェクトは、先端的な固体物理学の研究であると同時に、その研究で得られる知識を工学に展開する応用研究でもあります。熱の有効利用は、持続可能な省エネルギー社会・ゼロエミッション社会の構築につながります

ので、科学の発展に寄与するだけではなく、社会的な意義も高いと考えています。

熱を電気に変換する熱電発電素子も、本プロジェクトの開発対象です。熱電発電素子の究極の開発目標は、カルノー効率(熱機関の最高発電効率)の70%以上の効率を達成すること。これが実現すれば、身の周りに存在するさまざまな熱源から容易に、かつ、十分な電力を取り出すことが可能になります。

大規模な発電機が必要なくなり、内燃エンジンなども熱発電とモーターに置き換えられるかもしれません。つまり、現代人の生活を大きく変化させる可能性を秘めていると言えます。長年、研究されてきた素子で、誰も成し遂げることができていない難しい目標ですが、達成すればノーベル賞も夢ではないかもしれません。

竹内 恒博教授はこんな人!

趣味・特技は何ですか? 休日はどのように過ごしていますか?

週末には2時間の犬の散歩を楽しんでいます。犬(ミニチュアシュナウザー)の名前は「タケウチウケタ(笑)」です。車2台分の車庫の上に乗った屋根付きウッドデッキで、自転車の整備をしたり、剪定した庭木をチェーンソーなどで細切れにしたりしています。机、テーブル、物置小屋も作りました。

夏には、トマト、キュウリ、ゴーヤなどの野菜を庭で育てています。たまに、バーベキューなどもして、アウトドアっぽいことに浸っています。でも、最近は疲れて寝ていることの方が多いかもしれません。



エネルギー材料研究室 竹内 恒博教授

『私の研究、紹介します』

学生に自身の研究内容を紹介してもらうコーナーです。豊田工業大学の学生は日々、どのような研究にチャレンジしているのでしょうか。2回目となる今回は、博士後期課程の平田圭佑さんに登場していただきます。

Profile

大学院工学研究科 博士後期課程2年 エネルギー材料研究室 / 日本学術振興会特別研究員 (DC2)

平田 圭佑 さん (暁高等学校 [三重県] 出身)



▲韓国での国際学会中に本場のピビンバを堪能

研究テーマ ▶ 銀カルコゲナイドAg₂(S, Se, Te)の異常熱伝導度の起源解明とそれを利用した熱流制御デバイスの開発

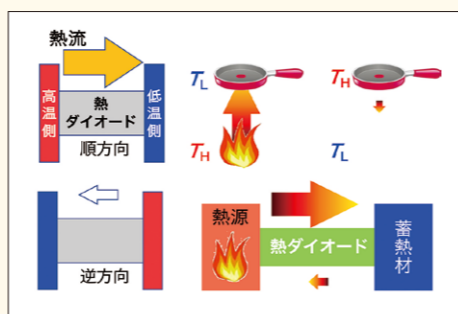
熱の有効活用による省エネルギー社会の構築

私たちは、さまざまな目的・形態でエネルギーを変換・利用していますが、これらのほとんどは最終的に100℃以下の低温廃熱として捨てられ、他にも太陽熱や地熱などの未利用熱が身の周りのさまざまな場所に存在しています。この廃熱・未利用熱の有効活用が、世界共通のSDGs(持続可能な開発目標)となった「持続可能な省エネルギー・低炭素化社会」を構築するために、近年、注目され始めています。熱を理解し、有効活用する技術は政府の戦略目標となり、その一つとして最近、熱流制御技術の開発が盛んになっています。

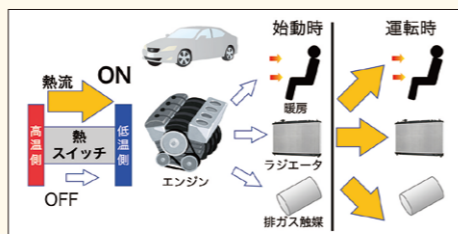
私の研究では、素子を流れる熱流の方向によって、熱流の大きさが変化する「熱ダイオード」および、素子を流れる熱流の大きさを電場で制御可能な「熱スイッチ」の開発を行っています。高性能な素子を開発することができれば、図のような温まりやすく冷めにくい機構や、冷却・加熱用に熱を効率的に分配する機構といった実用が期待できます。

私たちは、特殊な熱の伝導を示す材料を見つけ、耐熱ガラスの半分程度という極めて低い熱伝導度(~0.5 Wm⁻¹K⁻¹)、そしてある温度で急激に熱伝導度が変化(最大で5倍)する特徴を制御することで、これまでに世界最高性能を示す熱ダイオード・スイッチの開発に成功しました。具体的には、「銀カルコゲナイドAg₂(S, Se, Te)」という材料です。

現在は、Ag₂(S, Se, Te)の精密な物性測定、熱伝導に関連する電子構造や格子振動の解析を通して、先述した特殊な熱伝導の起源を解明し、熱伝導度を制御・設計するための指針構築を目指す基礎的研究と、それを利用して、社会に役立つ革新的な高性能熱流制御技術・材料の開発を目指した応用研究に取り組んでいます。

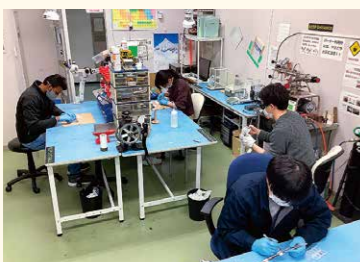


熱ダイオードの応用例：熱エネルギーの移動方向を制限して、温まりやすく冷めにくい状況を作り出します。熱を効率よく利用することが可能になります。



熱スイッチの応用例：熱エネルギーの移動のしやすさを制御することで、必要な時に必要な場所に熱を効率的に分配し、有効利用することが可能になります。

研究室紹介



材料づくり、理論計算、数値シミュレーション、先端計測、物性測定(極低温から高温まで)の全てを経験できる。

エネルギー材料研究室 竹内 恒博 教授 / 松波 雅治 准教授

本研究室では、持続可能な低炭素社会構築に寄与する機能性材料の開発を行っています。研究をするうえで学生やPD研究員に意識をさせていることは、「研究のための研究をしないこと」、「実用化可能な材料や素子を開発し、有名雑誌に論文を投稿する、物理的発見をするなどの高い目標を持つこと」、「研究のライバルは世界であると認識すること」および「研究の面白さを理解し、自発的に研究を進めること」です。

ゼミや報告会以外の時間をしぼることは一切していませんが、ほとんどの学生が研究に興味を持ち、時間を有効に使って教員やPD研究員と共に切磋琢磨してくれています。

研究を通して、多くの学生が著しい成長を見せてくれるので、研究室での活動が大学教育の醍醐味だと思っています。

「大学院博士後期課程奨学金」がさらに充実した内容になりました!



大学院博士後期課程に進学した学生が、研究に専念できる環境の整備を目的に、本学独自の奨学金制度を見直して「大学院博士後期課程奨学金」を新たに立ち上げ、従来よりも内容を拡充しました。

本奨学金は、経済的事由などにより学資の援助を必要とする学生(外国人留学生を含む)のうち、学業成績・人物ともに優秀で、かつ学修および研究意欲が旺盛な学生に対して給付されます。奨学生は1学年8名程度とし、給付期間は3年を限度とします。2021年4月入学生より適用され、原則「奨学金制度Ⅱ」を適用。ただし、選考・更新時において研究内容が極めて優れていると認められた場合は、「奨学金制度Ⅰ」を適用します。

	奨学金制度Ⅰ	奨学金制度Ⅱ
奨学金(月額)	20万円	15万円
入学金	入学金(26万円)全額を給付	
授業料	授業料(70万円)全額を給付	
備考	学資を必要としない学生及び入学時の年齢が35歳以上の者は対象外。1年ごとに学業などの取り組み状況进行评估し、奨学金の給付を減額することがある。	

NEWS FILE

スマート光・物質研究センター 第2回シンポジウム(3/4)

2016年度に本学の研究センターとして発足した「スマート光・物質研究センター」のシンポジウムがオンラインで開催され、計140名が参加した。同シンポジウムは、開学40周年記念事業の一環としても位置付けられ、これまでの研究成果を発表するとともに、波多野睦子教授(東京工業大学)、三林浩二教授(東京医科歯科大学)、

種村拓夫准教授(東京大学)による招待講演も行われた。同研究センターは、8つの研究室から構成され、フォトニクス材料や電子材料などの新物質開拓、ナノテク技術を駆使した新規素子創成やシステム開発を一貫して行い、次世代の計測・センシング・情報科学技術発展への貢献を目指している。



大石泰丈センター長

人事紹介

新任



電磁システム研究室

NGUYEN Gia Minh Thao 助教

2015年11月 早稲田大学 研究助手
2017年11月 本学PD研究員
2020年9月 名古屋大学 特任助教
2021年4月 本学助教に着任

主な研究分野

My research interests include control systems, electric machines and drives, core loss evaluation, power electronics, electromagnetic characterization, related measurement and analysis techniques. I have been researching the characterization and evaluation of magnetic materials used for inductor and transformer cores in power electronics applications at high frequency. I also study high-efficient motor drive systems considering the mutual effects of the SiC/GaN inverters and advanced control methods on motor losses.

定年退職



浅野 幸治 准教授



岡本 正巳 准教授

一般教育分野人文科学(哲学)の浅野幸治准教授、高分子ナノ複合材料研究室の岡本正巳准教授が3月31日付で定年退職を迎え、4月1日付で特任准教授に就任した。浅野准教授は、1999年に本学赴任、研究分野は哲学、法哲学、応用倫理学。岡本准教授は、1996年に本学赴任、研究分野は生体組織工学。

3月1日には、両准教授による最終講義がオンラインで行われ、浅野准教授は、「ベジタリアン哲学者の動物倫理入門」、岡本准教授は、「高分子ナノコンポジット」と題した講演をそれぞれ行った。

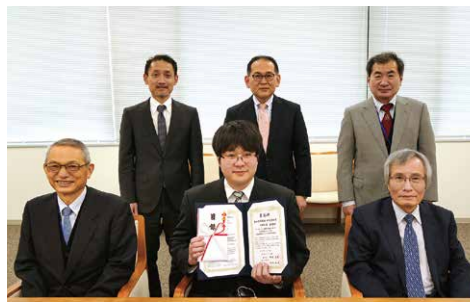
【 受 賞 】

学 内

■ 豊田奨学基金 研究賞 研究奨励賞

将来の進展が大いに期待される萌芽的研究を行った教員およびポストドクトラル(PD)研究員に対し、さらなる研究推進の奨励を目的として授与する。

受賞者	研究業績・テーマ
原 正則 准教授 (表面科学研究室)	ナノカーボン材料を担体に用いた水電解槽アノード用の高活性酸化イリジウム触媒の開発



■ 豊田奨学基金賞

学業成績・人物ともに特に優秀な学生に授与する。

受賞者	研究室名
学部：井藤 優斗(名古屋市立菊里高等学校[愛知県]出身)	半導体研究室
修士：尾川 弘明(愛知県立知立東高等学校[愛知県]出身)	電子デバイス研究室

■ 派遣企業の会 社会人学生優秀賞

勉学・研究に励んできた優秀な社会人学生に授与する。

受賞者	研究室名
林 亮太(ダイキン工業/茨城工業高等専門学校[茨城県]出身)	知能情報メディア研究室

■ 英語優秀賞

卒業判定の時点で、英語Step-Up Point (E-SUP) 制度での獲得ポイントが上位の学生に授与する。

受賞名	受賞者	E-SUP ポイント	研究室
英語 最優秀賞	前田 宙哉 (兵庫県立姫路東高等学校[兵庫県]出身)	347	量子界面物性 研究室
英語優秀賞	飯塚 叶 (清水東高等学校[静岡県]出身)	344	光機能物質 研究室
	安田 智貴 (名古屋市立向陽高等学校[愛知県]出身)	292	電磁システム 研究室



※英語Step-Up Point (E-SUP) 制度…入学から卒業まで継続的に英語を学ぶことを狙いとした本学独自の制度。TOEIC L&R IPへの取り組みをはじめ、各種英語イベントへの参加などを通じてポイントを獲得する。なお、卒業要件は100ポイント以上取得、卒業生の平均は143ポイント。

学 外

各学会から、人格・学業ともに優秀であると認められた者に授与する。

受賞名	受賞者	研究室
日本機械学会畠山賞(学部)	藤田 隼平(静岡県立浜松北高等学校[静岡県]出身)	固体力学研究室
日本機械学会三浦賞(修士)	北河 正洋(愛知県立国府高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
精密工学会東海支部学生優秀賞	加藤 響(栃木県立石橋高等学校[栃木県]出身)	固体力学研究室
自動車技術会大学院研究奨励賞	水越 祐希(愛知県立刈谷高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
計測自動制御学会中部支部賞学業優秀賞	林 亮太(ダイキン工業/茨城工業高等専門学校[茨城県]出身)	知能情報メディア研究室
電気学会東海支部長賞	笠井 純(岐阜県立岐阜高等学校[岐阜県]出身)	情報通信研究室

編集後記

今年は、卒業式・修了式、入学式を無事に挙行することができ、学生の晴れ晴れとした表情を見ることができました。困難な状況下における授業の在り方や、研究の進め方を模索した1年でしたが、それを乗り越え迎えた春は、例年通り活気と希望に満ち溢れています。